

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol. 360

■ 自動車工学関連講座（中堅技術者向け Web セミナー） 第3回「なぜなぜ分析実践のコツ」（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様から希望の多い中堅社員向け社内教育として、汎用的なテーマを取り上げ、自動車工学関連講座の一環として、中堅技術者向け Web セミナーを開催しています。

本年度も、多くの社員の皆さんが自社内で受講できる機会を企業力アップにご活用いただくため、カイゼンベース社を講師に、昨年度から内容も見直し、6回連続の Web セミナーとして順次実施しています。

今回は、第3回として「なぜなぜ分析実践のコツ」を Web セミナー形式で開催しました。

■ 日 時：2026年7月15日（水）13時30分～15時30分

■ 場 所：Web形式

■ 参加者：64社／533名

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 第3回

2026/7/15（水）13:30～15:30

2026年度カイゼンベースWEBセミナー
なぜなぜ分析“実践のコツ”

講師 / カイゼンベース株式会社 代表取締役 藤澤 俊明

カイゼンベース株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目12-1 パークエスト4F
TEL: 03-6569-0503（対応時間：10:00～17:00）
FAX: 03-6569-1148
Email: info@kaizen-base.com

1. なぜなぜ分析の基礎知識のおさらい

なぜなぜ分析とは
なぜを5回繰り返し、真因を特定し、再発防止策を打つ！

なぜ1 ①-1 ①-2 ②-1 ②-2

なぜ2 ①-1-1 ①-1-2 ①-2-1 ①-2-2

なぜ3 ①-1-1-1 ①-1-1-2 ①-2-1-1 ①-2-1-2

なぜ4 ①-1-1-1-1 ①-1-1-1-2 ①-2-1-1-1 ①-2-1-1-2

なぜ5 ①-1-1-1-1-1 ①-1-1-1-1-2 ①-2-1-1-1-1 ①-2-1-1-1-2

真因1 ①-1-1-1-1-1
真因2 ①-2-1-1-1
真因3 ①-2-2

「なぜ」は ①-1-1-1-1-1 に繋がる
真因が出るまで続けよう！

1. なぜなぜ分析の基礎知識のおさらい

なぜなぜ分析の7つのポイント

- 文章を簡潔に書く！
- 事象を混在させない！
- 逆から読んで意味が通っているか確認する！
- 再発防止に繋がるまで「なぜ」を繰り返す！
- 本質からズレた分析をしない！
- 人間の意識・心理面への原因追究はしない！
- 「悪い」という言葉は使わない！

礼儀作法や基本を疎かにしないこと

3. なぜの“スタート”と“なぜ1”を的確に挙げる

なぜなぜ分析を正しく行うためには

なぜなぜ分析入門で身につけたい2つのこと
（今日これだけはちゃんと覚えて帰る！）

なぜなぜのスタート（事象）を的確に挙げられるようになる

なぜ1を的確に出せるようになる（コツを掴む）

3. なぜの“スタート”と“なぜ1”を的確に挙げる

なぜ1を的確に出せるようになる（コツを掴む） 超重要！

とにかくMECEを鍛えるべし

“漏れなく、ダブリなく”全体を網羅すること

切り口1 切り口2 切り口3 切り口4 切り口5

＞ A or NOT
対象になるものと「それ以外」とすることで絶対にMECEになるように層別する
ex.) 首都圏 or それ以外
日本 or 海外

＞ プロセスや工程の流れで層別する

プロセス A プロセス B プロセス C プロセス D

7. 仕組み面まで落とす真因の導き方を身につける

仕組み面まで落とそう

二度と同じ問題が起こらないようにプロセス・仕組みを変えること

真因に「プロセスを変える」「仕組みを変える」という視点が入っていなければ、100%分析が甘いと考えるが良い

【参加者の声】

- ・なぜなぜ分析の手順から実践時のコツ、注意点までわかりやすく解説いただき、基本的な考え方と進め方を理解することができた。なぜなぜ分析については、ある程度知っていたが、聞き方等の実際のプロセスについて、理解を深めることができた。
- ・なぜなぜ分析の仕組みと過程が実践形式となっていてわかりやすかった。具体的に現場でどのように行動した方がいい結果になりやすいなどのアドバイスが良かった。
- ・なぜなぜ分析の手順やポイントについて改めて学ぶことができた。なぜなぜのスタートを的確に挙げること、なぜ1を的確に出すことが特に重要だとわかった。責めるような問い方や言い訳ななぜなぜをせず、どうすればもっと良くなるかを考えることが大切だということが勉強になった。
- ・陥りがちな間違いについて事例を用いてのコツであったため、その都度「ある、ある」と思いながら受講した。特になぜ1を的確に出せるようになるには訓練が必要と感じた。
- ・なぜなぜを使って深掘りをする際に、なぜを5回繰り返すことが真因を探す目安ということ、なぜの問いかけの仕方も工夫すると良いということが参考になった。例えば、「データ修正を間違った」に対して「なぜ間違ったか」ではなく「どういう修正が発生したか」となぜの問いかけの仕方を変えることで、真因が掴みやすくなると感じた。
- ・なぜなぜ分析を実務で使用した回数が少なく、自身で分析を実施すると語尾の文章が強くなってしまい、最終的な真因と事象が繋がりにくい分析になってしまっていた。本日のセミナーの中で、ポジティブな問いに変換するということが私の中で一番の収穫だった。
- ・なぜなぜ分析のなぜ1とMECEの重要性が大変参考になった。また、他責問題の悪い事例に当てはまる点が多々あったので勉強になった。数に触れることが必要だと強く思った。
- ・なぜなぜ分析は、単なる原因探しではなく、再発防止につながる仕組み改善のための思考法であると再認識することができた。また、いくつかの事例を通じて、原理原則に立ち返り、MECEで整理しながら、言葉と問い方を工夫して真因に近づくプロセスを業務で実施するイメージが湧いた。
- ・なぜを5回繰り返すというセオリーに対して、少ない回数で真因と判断する人はたいてい深掘りが甘いため、まずは5回やり抜く姿勢が大事という本質的な理由を聞き納得した。また、「なぜ1」をおろそかにしたまま進めると、「なぜ2」以降の分析や時間がすべて無駄になるというご指摘は、日々の業務でも思い当たることが多く、実践において最も気をつけるべきポイントだと実感した。
- ・日常的に「なぜなぜ分析」を使用しているが、これまでは個人・心理面の要因で終わってしまい、再発防止策が弱くなる課題感があった。今回のセミナーで、責めずにポジティブな問いかけの手法や、「組織としてコントロールできるプロセス・仕組み」まで踏み込んで真因を特定するコツを学べ、非常に有益な内容だった。
- ・問題が発生すると、ダブルチェックやチェックシートの追加など工程を増やしがちだったため、なぜなぜは工程を増やすのはリスクが増える、シンプルになおす、もどす、ということが大変勉強になった。
- ・なぜなぜ分析のポイントや、真因への導き方について理解することができた。これまでは「人員が足りない」「時間が足りない」「意識が低い」などを原因として挙げてしまいがちだったが、それらは真因ではなく言い訳や表面的な要因であることに気づかされた。
- ・原理・原則からのアプローチとあるべき姿からのアプローチする方法があり、二度と同じ問題が起こらないように仕組みを作ることが大事だと学んだ。
- ・全体的に、事例を用いた説明となっており、自分が実践する際のイメージができた。分析を行う際の聴き方によって、得られる答えが大きく変わり真因へのアプローチが変わる内容は参考になった。